観光関連団体トップ 新年あいさつ

逆境乗り越え、新たな未来の創造へ

全国旅行業協会会長　二階俊博

国内観光の活性化と旅行業回復に向けて

明けましておめでとうございます。本年が実り多き年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

全国旅行業協会は、全国5500社を超える会員並びに関係各位のご理解とご支援を得て、旅行業の発展につながる活動を続けております。当協会の活動に対する皆さまのご協力に心より感謝を申し上げます。

さて、昨年は、新型コロナウイルス感染症の流行による緊急事態宣言の発出、移動の自粛要請などにより、わが国の国民生活、経済活動は深刻な影響を受け、私ども旅行業界は、これまで経験したことのない、厳しい経営環境に置かれました。

このため、当協会は、緊急融資の迅速な実施、持続化給付金の交付、雇用調整助成金等の特例措置など、会員の足元の支援となるような施策の実施を国に要望してまいりました。同時に、国内旅行需要喚起策を要望してまいりました。本事業は山梨県甲府市においてご後援を得て、新型コロナウイルス対策を徹底した上で開催いたします。

本大会を成功させ、山梨県の観光の魅力を皆さまに広くPRし、山梨県への送客促進を図るとともに、旅行・観光産業のコロナ禍からの復活ののろしになる大会となるよう地元実行委員会とともに盛り上げてまいります。

本年も、旅行業協会としては会員への情報提供と指導に努め、旅行取引の適正化、旅行の安全確保と旅行者の利便の増進に努めてまいります。これまで培ってきた長年の経験と英知を結集して力を発揮し、旅行、観光を通じて全国各地の元気を取り戻し、世の中に明るい光を灯せるよう全力を挙げてまいりましょう。

年の始めに当たり、所感の一端を申し述べました。令和3年の皆さまのご繁栄とご多幸を祈念し、年頭のごあいさつといたします。

日本観光振興協会会長　山西健一郎

国内観光の構造改革進める

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、東京オリンピック・パラリンピックの開催を機に観光業界にとって飛躍の1年にと願っていましたが、新年早々に発生した新型コロナウイルス感染症により、オリ・パラも延期され、さまざまな場面で移動が制限されるなど、観光業界に激震の走った1年でした。また、「観光」という産業が地域の医療をはじめ、さまざまな方々のご努力により支えられていることを改めて感じた1年でした。その一方で遠隔地を結びながら、さまざまなイベントがオンラインで開催されるなど、少し前には想像できなかったことが現実になり、時代の変化を強く感じるところです。こうした中、2020年は協会として新しい時代に向けた変化に挑戦した1年でもあったと感じています。

当協会として、まずは、感染症の流行で危機管理の重要性が増す中、さまざまなリスクを想定し、観光関連事業者の対応力強化に向けた検討と支援を行うため、日本商工会議所と連携し、「観光危機管理・事業継続力強化研究会」を昨年6月に設立し、セミナーなどを開催いたしました。10月にはツーリズムEXPOジャパンを沖縄で開催いたしました。コロナ禍の影響を受けた沖縄のお役に立てたのではないかと考えております。

新しく迎える2021年は、国内観光の構造改革を進めるための1年にしたいと考えています。その一つとして、ワーケーションへの取り組みがあげられます。当協会では、既に2020年度から働き方改革やコロナ禍によるリモートワークなどが進展する中で、時代の変化による新しい需要を喚起するための施策として、また、連休やお盆、年末年始のピーク期間に集中しがちな日本の観光の弱点の補完を目的として、日本経済団体連合会、ワーケーション自治体協議会と覚書を結び、ワーケーションへの取り組みを開始しています。その他、観光地の危機管理や、地域を巻き込んだ旅行の安全、衛生体制の確立など、新たな観光のスタイルを提唱し、ムーブメントをつくることで、新型コロナウイルス感染症からのリカバリーを図るとともに、日本の観光産業をよりたくましく、強靭なものにしてまいりたいと考えております。

皆さまのご理解とご協力をもちまして、2021年4月1日で当協会は設立10周年を迎えます。状況がめまぐるしく変化する昨今ですが、引き続き協会に科せられた①ネットワーク②価値創造③持続的な成長―の三つの役割を果たし、理念である「観光の光で輝く持続可能な社会の実現」をめざし努力してまいりますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、皆さまの新しい1年のご発展とご多幸をご祈念申し上げます。

全日本シティホテル連盟会長　清水嗣能

50周年とMVV

本年、当連盟の50周年を迎えるに当たり、今後の指針としてMVVを策定しました。ミッション、ビジョン、バリューというブランドコンセプトであり、アメリカの企業などは、その多くが策定しているものです。自分たちの存在意義を明らかにし、組織として果たすべき役割は何か、自分たちはどのようにありたいのかを明らかにしました。

これまでにも定款はあり目的も明文化していましたが、常に意識しているとは言いがたいものでした。コロナ禍という未曾有（みぞう）の売上減少局面でのことであり、オリンピックさえも延期になるという、誰もが自社の存続をかけた忍耐の日々ですが、そうした中であるからこそ、自分たちの在り方を見つめ直すいい機会と考えました。組織運営において根幹となる考え方を明らかにすることは、大切なことであり、これからの当連盟の組織運営はこのMVVに照らし合わせて考え、行動していくことになります。

その一つの象徴として、会の名称変更を検討しています。

われわれ連盟のミッションは「時代のニーズを捉え、革新性をもって、国や地域に貢献し、人々が幸せになるお手伝いをすること」と明確に定めました。連盟の進むべき方向性を明確化することによって、会員の思いのベクトル合わせを行い、力を結集して連盟と会員ホテルの価値向上に努めます。それは取りも直さず自分たちのためだけでなく、連盟活動を通して、国や地域に貢献し、人々が幸せになるお手伝いをすることであります。

また、自分たちのありたい姿である連盟のビジョンとしては「会員ホテルの挑戦を促し、日本および地域に新たな風を起こすイノベーターになる」としました。

創立50周年を迎えるに当たり、このビジョンを具現化するための記念事業として、複数の都市で地域活性化事業などを行います。観光活性化を通して地域のまちづくりを行い、地域の発展につなげる事業であり、当連盟がその仕掛人となっていきます。

さらに、MVVに加え、それらを分かりやすく内外に伝えるステートメントとして「新しい物語を、ホテルから」としました。ホテルがそれぞれのお客さまの良き思い出づくりの場となり、また地域づくりの発信者ともなるという意味を込めています。

50周年は大きな節目であり、当連盟はMVVに基づきダイナミックに活動してまいります。

日本旅行業協会会長　坂巻伸昭

旅のチカラで日本と世界を元気に

2021年の年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

今から1年前、訪日外国人観光客数、海外旅行者数はいずれも過去最高となり、官民一体で国際交流を推進し、日本のツーリズムのさらなる成長を目指していたところ、新型コロナウイルスの感染拡大によってツーリズムは停止、世界の様相は一変しました。JATAは「企業存続のための支援、自粛の緩和、大規模な需要回復施策の実施」を官邸にお願いし、雇用調整助成金の特例措置と期間延長、Go Toトラベル事業の実施等に至りました。また、「ツーリズムEXPOジャパン旅の祭典 in 沖縄」を開催し、総力を挙げた感染症対策により、1人の感染者も出さなかったことは大きな成果となりました。

ツーリズムは世界の雇用と経済を支え、国を超えた人々の相互理解と文化を生み出します。コロナ禍で私たちはその役割を改めて認識しました。その役割を果たすためにも、持続可能なツーリズムの成長を続けて人々の心と生活を豊かにしていかなければなりません。

2021年は旅行業界の大きな転換期です。Go Toトラベル事業を一過性の経済対策とするのではなく、旅行業界のより一層の発展につなげる、その次のあり方を考えなければなりません。また、国際交流の再開のためには、インバウンドとアウトバウンドの両輪の戦略が必要で、一歩踏み出すためのJATAの役割を全うしなければなりません。

今夏には、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会があり、旅行・観光産業全体で創り上げ、浸透させていかなければなりません。そして、培ってきた企画力と提案力に磨きをかけて全体で国際交流再開のきっかけとなるように取り組んでいかなければなりません。また、世界が求める、安心・安全を担保した「新しい旅のスタイル」を創る「共創」を、観光に携わる全ての人と手を取り合って取り組んでまいりたいと思います。

共に歩む「協調」と共に付加価値の高い旅を創造し、旅のチカラで日本と世界を元気にしていこうではありませんか。

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、各省庁、自治体、民間企業等関係者の皆さまとオールジャパン体制で取り組んでまいりたく、引き続きご支援を賜れればと存じます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本政府観光局理事長　清野　智

訪日再開へ関係者と連携

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

2020年は世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、これまで堅調に推移していた訪日旅行に関しましても甚大な影響を受けました。この業界に携わる全ての皆さまにとって苦難の1年となったことは言うまでもありません。このような中で各国間の交流が再開されるときに向けて皆さまが懸命に努力をなさっていることに改めて敬意を表します。

難しい状況ではありますが、旅行先としての日本の魅力が失われてしまった訳ではありません。複数の調査において、旅行先として日本が依然高く評価されていることが明らかとなっています。治安がよく衛生的であるという従来からのイメージを基に、感染症対策をしっかりと講じ、受け入れる側、訪れる側双方にとって安全で安心な旅行を提供することが、インバウンドの安定的な回復につながるものと考えております。

私どもとしては、22カ所の海外拠点を持つ強みを最大限に生かし、日本の魅力を継続的に発信するとともに、海外各地の状況や最新の旅行動向といった将来の観光交流および訪日プロモーション活動の再開に資する情報の収集・分析に努めます。これに合わせ、海外メディアにもっと日本を知っていただくための施策を実施するほか、各種スポーツ愛好者向けのプロモーションへの取り組みも積極的に進めてまいります。

コロナからの復活、そして、オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、オールジャパン体制で取り組んでまいりたく、引き続きご支援を賜れればと存じます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

国際観光日本レストラン協会会長　安田眞一

料亭文化もしっかり守る

2020年は東京オリンピック・パラリンピックが1年間延期され、コロナコロナで明け暮れた1年でございました。コロナ不況の中、「Go Toトラベルキャンペーン」が始まり、年末年始の売り上げに一縷（いちる）の希望を持っておりましたが、全国一斉停止となり、急に梯子（はしご）を外された感じです。観光の持つ影響力の大きさを如実に感じ、菅！とデモ行進をしたと義偉首相も謝罪なさったようですが、後の祭りとはこのことです。

アメリカ合衆国では、30万人の死者が出て、大変な状況ですが、3月までに1億人にワクチン接種をするとのことでございます。アメリカ大統領の就任式もオンラインで行うという話もございました。

パリではレストランのシェフが、「緊急事態宣言」を解除して仕事をさせろ」とデモ行進をしたようですが、厳重な感染症対策の中、素晴らしいお祝い会でございました。5人掛けの円卓は隣りとの境をアクリル板でしっかりと隔てられ、エグリ・ウーリエのシャンパンが大変おいしゅうございましたが、隣との会話はもっぱらアクリル越しで寂しい限りでございました。

6月ごろまでには、ワクチンや特効薬も普及し、東京オリンピック・パラリンピックも開催できると希望的観測をしております。アスリートの躍動感あふれる活躍が、日本に元気を与えてほしいと期待しております。

「1年前はひどかったなぁ」とコロナ時代を懐かしく思い出したいものでございます。ご家族さまをはじめ、御一党さま、社員の皆さま、そしてお客さま皆さまのご無事と、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。

ところで新年を迎え、新型コロナウイルスの名称は何となるのでしょうか。「中国ウイルス」でしょうか、それとも「スペイン風邪」でございますか？

国際観光施設協会会長　鈴木　裕

コロナ転じてＩＴ仕掛けの観光型再開発と為す

1．オフィス、レジデンス、ホテルという機能の境界が溶けていく

多くの人が外出自粛令により、在宅勤務を経験することになりました。オフィスでなくても家でもサテライトでも、場合によってはリゾートでも仕事ができるという実状に伴い、建築の機能の境界が溶けてオフィス、レジデンス、ホテルが融合しています。新しい施設の運営・マネジメントは、ノウハウを持っているホテルが行うことになります。

2．建築を出て町へ行こう

旅館にあらゆる機能を囲い込み、利益を最大化しようとしたことで町が衰退した温泉地の例に対し、共同温泉に客を送ることで町が活性化し、旅館も繁盛している城崎温泉が注目されています。この教訓は温泉地だけでなく、広く地方都市の問題として捉えられると思います。

機能を凝縮複合した大きい施設を造るのではなく、分散した小さな施設をITで連携させ、ホテルがマネジメントすることで町を再生することができると考えます。

3．町じゅう旅館・町じゅうホテル

日本は南北3千キロ、亜寒帯から亜熱帯に渡る美しい自然に恵まれた国土である一方、災害大国であり、2千年にわたる悲しみを乗り越えてきた風土でもあります。

悲喜こもごもの歴史を伝え知っている老舗の旅館・ホテルを町のレセプション、コンシェルジュとし、街のレストラン、温泉スパ、トレーニングジム、プール、貸し会議場、協会、神社などをITでつなぐことで一つの旅館・ホテルにできないだろうか。この企画に、ソニーマーケティング、ジョルダン、TOAが新会員となり参画してくれました。

あっという間に三ノ輪の行燈旅館で実証実験が始まり、京都でも近日中に旅館2軒で始まります。基幹プラットフォームはオープンでさまざまなサブシステムが組み込め、災害弱者である観光客にチャットボット、災害情報・避難誘導のサブシステムで安心・安全も提供できます。

4．観光による旧市街地再開発

駅前の地方銀座と国道沿いの大規模駐車場付き飲食、物販店舗という新市街地、空洞化して閑散とした旧市街という風景は地方都市によく見られます。町じゅう旅館・ホテルシステムにより旧市街地を小さく分割して再開発すれば、観光による旧市街地が再生できると思います。

今年はかなり実現性の高い夢であります。